

# 令和元年度第2回草加市みんなでまちづくり会議

## 議 事 録

### 1 開催日時

令和元年7月24日(水) 午後7時～午後9時5分

### 2 開催場所

草加市立中央公民館 第1・2講座室

### 3 出席者の氏名

(1) 登 録 員 14名

(2) 事 務 局 みんなでまちづくり課：森田課長、工藤課長補佐、池田主事

市民活動センター : 鈴木(智)所長、小柳主事

### 4 会議の議題

「生活支援体制整備事業」について

### 5 公開・非公開の別

公開

### 6 傍聴者数

2名

### 7 会議の内容

別紙議事録のとおり

### 8 議事録署名人

鎌籠 榮一、小俣 克彦

# 令和元年度第2回草加市みんなでまちづくり会議 議 事 録

【実施日時】 令和元年7月24日（水）午後7時～午後9時5分

【実施場所】 草加市立中央公民館 第1・2講座室

【出席者】 まちづくり登録員：14名、傍聴者：2名

事務局：みんなでまちづくり課 森田課長、工藤課長補佐、池田主事

市民活動センター 鈴木(智)所長、小柳主事

1. 開 会

2. 議 事

<議題> 「生活支援体制整備事業」について

3. 閉 会

【議事内容】

<p>【事務局】 (鈴木所長)</p>	<p>本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。定刻になりましたので、令和元年度第2回草加市みんなでまちづくり会議を開催します。本日司会を務めさせていただきます、市民活動センター所長の鈴木です。よろしくお願いいたします。</p> <p>初めに、事務局のみんなでまちづくり課 課長、森田より挨拶を申し上げます。</p>
<p>【事務局】 (森田課長)</p>	<p>改めまして、皆さまこんばんは。みんなでまちづくり課長 森田でございます。本日も、お疲れの中、みんなでまちづくり会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。本日のみんなでまちづくり会議は、市からの情報提供ということで「生活支援体制整備事業」について、草加市の長寿支援課、社会福祉協議会からお話をいただく内容となっております。「生活支援体制整備事業」ですが、住み慣れた地域で暮らし続けるために、互いに支え合いのまちづくりを進める事業でございます。これからのまちづくりを考えていく上では、参考になる取組と考えておりました、今回テーマとさせていただきました。本日も終了が21時頃になってしまうかと思いますが、お疲れのところ遅い時間となってしまいますが、最後までお付き合いいただけますようよろしくお願いいたします。</p>
<p>【事務局】 (鈴木所長)</p>	<p>それでは、議題に入る前に、この“みんなでまちづくり会議”の概要について手短かに説明させていただきますと思います。</p> <p><b>【みんなでまちづくり会議の説明】</b></p> <p>本日、皆さまにお集まりいただいているこの「草加市みんなでまちづくり会議」は、草加市みんなでまちづくり自治基本条例に基づき開催している会議です。この「草加市みんなでまちづくり自治基本条例」は市の条例の中で最も基本となるものとして、『だれもが幸せなまち』をつくるため、市政の基本となる原則や方針を定めるものとして施行されました。この条例の特徴は、市民の提案権や発言の場などを保障し、市民の皆さまが直接まちづくりに参加できるところにあります。</p> <p>以上のような位置づけの会議です。</p>

それでは、皆さまにお配りした資料の確認です。

**【配布資料の確認】**

- ・会議の次第
  - ・資料1 第1回会議まとめ
  - ・資料2 平成27年度第1・2回草加市みんなでまちづくり会議まとめ  
テーマ『地域コミュニティの再生—安全・安心して暮らせるまちづくり—』
  - ・資料3 「生活支援体制整備事業」について（草加市長寿支援課、草加市社会福祉協議会）
  - ・資料4 生活支援コーディネーターニュースVol. 1
  - ・資料5 みんなでまちづくり会議の運用
- 参考資料 そうか社協だよりNo. 159

資料は揃っていますか。資料が不足している方は挙手でお知らせください。なお、自治基本条例条文（規則条文含む）は配布しておりませんが、必要な方がいましたら事務局までお知らせください。

**【会議録の署名について】**

次に、会議開催に当たり議事録を作成しますので、議事録の署名人を2名決定します。本日は、鎌龍様、小俣様をお願いしたいのですが、よろしいでしょうか。

**【登録員一同】**

(同意の意向)

**【事務局】**

(鈴木所長)

それでは、鎌龍様、小俣様、議事録の署名につきまして、よろしくお願ひします。

ここから本日の議題に入ってまいります。まちづくり登録員の**【登録員A】**、**【登録員B】**に進行役をお願いすることが決まっておりますが、**【登録員B】**は本日所要でお休みですので**【登録員A】**、進行をよろしくお願ひ致します。

**《司会を登録員へ》**

**【登録員A】**

振り返ってみますと、4年間この席に座っています。みんなでまちづくり会議は、とても大切なので、もうしばらくご協力させていただければと思います。よろしくお願ひいたします。

今日の流れについて、鈴木所長お願ひいたします。

**【事務局】**

(鈴木所長)

資料2をご覧ください。

このみんなでまちづくり会議は、市民からの提案があつて開催される会議でございました。その後、会議の仕組みの見直しがされ、提案が無くてもテーマを定めて皆さまに意見交換をしていただく場として、あるいは行政サイドから事業や施策などの情報提供の機能を加

	<p>え、平成27年度に再スタートして今日に至っております。当時の会議で、地域コミュニティの再生—安全・安心して暮らせるまちづくり—をテーマに様々なご意見をいただいています。それを取りまとめたものが、資料2でございます。</p> <p>資料2をご覧くださいますと、課題として、高齢者の独居世帯、コミュニティの希薄化、施設の再活用などいくつかのお題目が上がっています。その横には主な意見としてたくさん意見をいただいています。</p> <p>お配りした社協だよりの159号をご覧くださいたいと思います。</p> <p>めくっていただくと最初のページに、近年の社会状況ということで、少子高齢化などいろいろな課題が挙げられており、重点事業が盛り込まれています。さかえーるを活用している例もあります。これらを見た時に、かつて平成27年度に皆さまに議論いただいたことが、そのままざられているわけではないですが、多くの事が現在に繋がっている様子が見て取れると思います。そうした課題解決の具体的な取組の1つが、本日、お話いただく「生活支援体制整備事業」になります。本日は、「生活支援体制整備事業」について所管部署からの事業説明になります。草加市長寿支援課の小林課長補佐、宮下主事、草加市社会福祉協議会の廣川課長、生活支援コーディネーターの白河部さんにお越しいただいております。</p> <p>まちづくり登録員の皆さまには、このお話を聞いていただいた後に意見交換をお願いしたいと思います。</p> <p>事務局からは以上になります。</p>
【登録員C】	<p>はい、質問です。</p>
	<p>前回、私がお話した自治基本条例の検証委員会とみんなでまちづくり登録員の位置付けと いうか、自治基本条例の検証委員は5年に一度行い、私たち登録員は単年で行っております。最終的には、自治基本条例の検証委員会を通らないと、予算に反映されないとおっしゃっていたのですが、その辺についてお話いただいても良いでしょうか。</p>
【事務局】 (鈴木所長)	<p>今のお話は今日お話いただく内容とは少し違うので、後でご説明させていただきます。</p>
【登録員C】	<p>その辺がわからないと先に進まないじゃないですか。</p>
【事務局】 (鈴木所長)	<p>今日の主旨は先ほどお話しさしあげた通り、福祉のテーマで進めさせていただきます。</p>
【登録員C】	<p>所長と私の個人で話しても意味が無いと思います。みんなが知らないと、これからやるにも集まっていただく人に意味が無いです。</p>
【事務局】 (鈴木所長)	<p>検証委員会を通さないと予算が出ないなんて話ではなかった気がします。主旨が違いますので、先に進めさせていただきます。</p>
【登録員A】	<p>鈴木所長からもお話がありました通り、主旨が異なるのと、自治基本条例見直しの市民検</p>

	<p>証委員会の場合と、この会議の場合は自治基本条例ということでは繋がっていますが、役割は全く違います。別に検証委員会を通らなければ、市がなにかできないとか予算がつかないとかは違いますし、お互いにそういう関係性ではありません。所長がお話したように、前回もそんな話では無かった気がします。もう少し、そういう所を話されるのであれば、この場とはまた別の所で、お話いただければと思います。</p>
【登録員C】	<p>最終的に市に意向を出す時など、検証委員会を通すのでしょうか。</p>
【登録員A】	<p>性質が異なりますので、そういった主旨ではございません。  それでは、生活支援体制整備事業について長寿支援課、社会福祉協議会からご説明をいただきたいと思いますが、よろしく願いいたします。</p>
<p>【草加市長寿支援課】  (小林課長補佐)</p>	<p>今日は、生活支援体制整備事業について、ご説明させていただきますが、この生活支援体制整備事業は、社会福祉協議会にご協力をいただいているので、前半を私の方から概要をご説明し、後半は社会福祉協議会の方にバトンタッチをしたいと思います。</p>
<p>【草加市社会福祉協議会】  (白河部コーディネーター)</p>	<p>皆さま、こんばんは。草加市社会福祉協議会の白河部と申します。  私の方からは、実際にどんな活動をされているのかをお話させていただければと思いますので、よろしく願いします。</p>
<p>【草加市長寿支援課】  (小林課長補佐)</p>	<p>皆さま、生活支援体制整備事業というのは、聞いたことがおありでしょうか。実は、この生活支援体制整備事業ですが、介護保険制度に基づいて作られている制度になります。  一見、介護保険とどのような関係があるのかと思われるかもしれませんが介護保険法の地域支援事業という事業の一つに位置付けられています。  一枚めくっていただくと、こちらが介護保険の変遷となります。介護保険制度は、介護が必要な高齢者の生活の支えとして、平成12年に創設されましたが、社会の変化に対応するために3年に一度改正が行われています。こちらが、その変遷を表したものになりますが、平成18年の第3期に、地域支援事業が制度化され、介護が必要な高齢者だけでなく、介護を受ける前の段階の方の支援も重視していくこととなり、地域包括ケアセンターもこの年に設立されました。そして第5期になりますと、平成24年にますます進む超高齢化社会に向けて地域包括ケアシステムというものが位置付けられました。この地域包括ケアシステムという言葉も聞き慣れないと思うのですが、地域包括ケアシステムというのは、介護が必要な状態になってもいつまでも住み慣れた地域で、最後まで過ごすことができるように、住まいを基盤に在宅医療や介護が必要な時にきちんと提供され、ちょっとした困りごとは、地域の手に手伝ってもらい、元気な人はますます元気に、高齢になり体力が心配な方も歩いて行ける場所に介護予防の取組みや出かける場がある地域づくり、その一つ一つの取組が連携をしながら一体的に提供するというものです。今後ますます進む高齢化に備えて、2025年までにこのしくみを各自治体で構築することが、介護保険法にうたわれました。この地域包括ケアシステムを作っていきたいとなった背景には、やはり超高齢化社会の到来がありま</p>

す。その背景を皆さまと見ていきたいと思ひます。皆さま、日本人の平均寿命はご存知でしょうか。男性は80.98歳、女性は87.14歳です。それでは、皆さま、健康寿命をご存知でしょうか。健康寿命は、健康で暮らすことができる寿命で、男性72.14歳、女性は74.79歳です。先ほどの平均寿命から健康寿命を引くと、男性は8.84歳、女性は12.35歳になります。介護もされる側もする側も、体力的にも経済的にも長ければ長いほど問題が生じてくるのかなと思ひます。続いて草加市のデータになりますが、白い棒グラフが前期高齢者、黒い棒グラフが後期高齢者の数値になり、黒い棒グラフの後期高齢者の方がどんどん増えていくのがわかると思ひますが、令和7年に団塊の世代の方々が75歳以上になり高齢化は今後さらに進むことが見込まれています。

続いて、高年者のみの世帯の推移になります。黒色が単身世帯で、白色が夫婦のみ世帯になり、どちらも増加していることがわかります。こちらが認知症高年者数の推移になっています。高年者の増加に伴い、認知症者数も増えていくことが予想されています。認知症予備軍も増えており、高年者の5人に1人が認知症の疑いがあるとも言われています。

そして、少子高齢化社会と呼ばれていますが、支え手になる若い人も少なくなってきた傾向にあります。国のデータになりますが、2015年には、75歳以上の1人の高年者を5.7人で支えています。2025年には3.9人で支えることになり、2040年には3.3人で支えるようになります。また、この3.3人の中には元気な高年者も一緒に支え手側になってもらうようになるだろうと言われていひます。

続いて、一人暮らしの高年者が日常生活で何に困っていますかということを表したグラフになります。一番が、家の中の修理、電球交換、部屋の模様替えになります。続いて自治会の活動、次に掃除や買い物といったものが上がっています。

続いて、介護認定を受けている人の推移になります。下から要支援1、要支援2、要介護1となっています。これを見ると比較的軽度の方が増えてくるのかなというのがわかると思ひます。比較的軽度の要介護認定をお持ちの方、点の丸で囲っている方になりますが、その方々のニーズ、どんなことをしてもらいたいかということを書き出したところですが、この段階の方々は、身の回りのことは自立しているのですが、買い物や掃除、通院等が自分だけではできなくなってしまうので、ヘルパーさんに支援をお願いしている方が多いようです。次に、終末期に療養したい場所はどこかという質問で、半分以上の方が、最後まで住み慣れた家で暮らしたいという結果になっています。このようなことを踏まえて、高年者を取り巻く社会の変化ということで、人口構成の激減、高年者世帯の増加、認知症や軽度の支援が必要な人の増加、高年者の在宅ニーズ、地域の希薄化、そして厳しい財政状況の中、今まで同様の介護サービスを受けることが難しいということ、そして、介護サービスを導入することで、負担や疲労は少なくなるかもしれませんが、社会からの孤立や自立の妨げということが課題になってきます。このような背景から、介護保険サービスだけでなく、身近な所で身近な地域での、お互い様の助け合いができるように、地域包括ケアシステムの仕組みが、うたわれるようになりました。赤い線で囲っている生活支援、介護予防の部分は、特に地域みなさんと協働しながら、それぞれの地域で必要なしくみを考えて作っていくことが大事であると言われていひます。そしてこの部分が本日お話をすすめていく生活支援体制整備事業になります。

具体的に支え合いの地域づくりとはどんなことだろうかを描いた図になりますが、まず左の図は現在の地域の現状の様子です。元気なうちは、お友達や近隣の方たちと一緒に楽しく生きていくことができた。でも、病気やケガ等で介護を受けるようになると、今まで築いてきた関係が離れてしまう。介護サービスを受けているから、あの人大丈夫よねとか、デイサービスでいつも忙しそうだから声かけづなくなったねとか、段々地域の方との繋がりも無くなってきてしまうことも起きてしまいます。それを、右側の図にもあるように、友人や地域の方々とのお互い様の助け合い、たとえば、一緒に体操に行く、おかずのおすそ分け、お掃除のお手伝い、一緒にお買い物、ご近所同士での茶話会等があれば介護やお世話が必要になっても、地域社会から切り離されることなく、介護のサービスをうけながらも、今まで通りのなじみの関係づくりが続くかなと思います。このような、地域の中での支えあいの関係性を作っていけるような取組みを進めていくのが生活支援体制整備事業の目指すところです。

地域の支えあいの場を作ろうとひと言に言っても、高齢化や地域の希薄化等の大きな課題があるので、地域の支えあいのしくみは自然に出来上がることは難しいところです。そのため、国では、地域住民が中心となる地域づくりや支えあい活動をバックアップする旗振り役生活支援コーディネーターと支えあいの地域づくりのための話し合いの場である協議体という会議を行っていくということになりました。

市では、草加市社会福祉協議会に、業務を委託し、生活支援コーディネーターを配置し、協議体の活動を進めています。市全体の調整役である1層のコーディネーターと地区の活動を支援する2層のコーディネーターがおります。協議体についても、2層の協議体は各地域の課題について話し合う場となっており、1層の協議体は、2層の協議体で話し合っただけで課題となって挙がってきたものを市全体の課題として話し合う場となっています。協議体のメンバーは、こちらにもあります、町会、自治会の関係者の方たちや、いろんな分野で活動なさっている方、地域に根付いた活動団体の方などに関わってもらっています。そして、メンバーの変更も必要に応じて行っています。生活支援コーディネーターと協議体が行うことをまとめますと、地域の課題について話し合ってもらい、地域の資源について調べて、地域に何が不足しているのか、そして自分たちが何をしたいのか、していけるのかを協議しています。協議体の会議以外にも、地域で活動してみたいという方の相談にのり、活動の後押しをするなどの支援をしています、また、地域に出向いて行って、地域の方々といろいろな話をする中で集めた情報を、協議体でフィードバックして地域の方と情報共有し、地域づくりに生かしていくといったこともいただいています。このような取組みを行っておりますが、この取組みは地域の方々と一緒に進めていく、地域の方々の思いを大事にしていくという事業になるので、なかなか思うように展開していかないこともあります。ですが、試行錯誤しながら、少しずつではありますけれども、着実に取組みが行われてきています。具体的な取組み内容については、を生活支援コーディネーターの白河部さんの方から説明していただきます。

それでは、ここからはコーディネーターの活動についてご説明させていただきます。中にお配りしました青いチラシをご覧くださいなのですが、生活支援コーディネーターニュースvol. 1 というチラシです。こちらはみなさんで活動したい方がいらっしゃった時に、こん

【草加市社会福祉協議会】  
(白河部コーディネーター)

な活動をしたいなというのをコーディネーターの方に紹介してもらいたいなということで作ったチラシです。この裏面の方ですが、コーディネーターの取り組み内容になっております。その右下に生活支援コーディネーターは地域の支え合いの活動を応援するのが役割ですと書いてありますが、その下にコーディネーターの主な役割を記載しています。その中で、今、小林さんの方から話がありました、話し合いの場を平成28年度から進めてまいりまして、第1層の草加市全体の協議体の方では、今日、参加していただいているボランティア草加連絡協議会さんにも携わっていただいております。資料の方に戻っていただき、21ページの第1層の協議体の取組と書いてありますが、これは平成28年度に草加市がどんなまちになっていけば良いのかを皆さまで話し合いをさせていただいております。その中でも、草加市で使える会館が少なく、町会会館が使えないという意見もでています。そのため、各町会会館に使用状況のアンケートを送り、また介護事業所の担い手の方たちが、どんな状況なのかをアンケートで行ったりしています。その中で、皆さまの中から出た意見で、要支援の方がゴミをご自宅からゴミ捨て場に持っていくことができないという意見がいくつか出てきました。ですので、協議体として廃棄物資源課の方に意見を出させていただきました。そして29年度、次のページになります。こちらに29年度を取組を乗せさせていただいております。ふれあい・支え合いフォーラムというのを行いました。ご参加くださった方もいらっしゃると思うのですが、さわやか福祉財団の堀田さんに講演をいただいたり、あと地域で活動している方たちにご登壇いただいて、ディスカッションを行ったりしています。その中で、皆さまが活動したいという方に集まっていただいて検討会なども行いました。そして次の23ページになるのですが、今後の第1層の協議体で行っていこうと思っている取組です。今、草加市の中で、第2層の協議体が二カ所立ち上がっているのですが、それ以降、今年度順次各地域に、協議体を作っていくことが課題となっています。その中で、第2層から上がってきた課題を、草加市全体の第1層の協議体で、草加市全体で取り組んでいく課題は何かという事を進めていくことを検討しています。次に第2層の協議体についてですが、草加市では稲荷地区と松原地区の2地区で発足されています。先ほどの社協だより1面で、IMAいなりとありますが、それが稲荷地区で行われている活動になります。稲荷地区では、誰もが参加できるような場所を地域の中に1つあることが大事だよねという話が出ました。稲荷地区にはコミュニティセンターがありますので、そこを開放して、子どもから大人までいつでも誰もが集まれるような場所を作ろうということで、取組、話し合いを進めて、IMAいなりというサロンを立ち上げました。その中で地域の困りごとを課題にして、進めていこうと皆さんと話し合って進めています。そして、次に松原地区についてです。松原地区でも、団地の建て替えに伴って、もともといた住民と新しい住民との地域交流や世代交流というのをいかに進めていくかを話し合っています。そのようにして地区で、協議体が発足しているような状況です。そして協議体以外の活動としては、少し例を上げさせていただいております。こちらは社協だよりの3面ですね、さかえーるというのですが、今、社会福祉協議会の中で、民家を一軒、借りておりまして、そこで、地域の居場所作りに取り組んでいます。みんなの保健室陽だまりさんも毎週木曜日こちらで活動しています。そして、さかえーるでは、社協が借りているのですが、社協がそこで何かをやるといったことではなくて、住民の方たちが必要と思う活動を皆さまにさせていただく場として、活用してもらおうといった



イメージで、立ち上げました。そこで運営委員会といったものを持っていき、地域住民の方たちに参加していただき、そこで何が必要か、さかえーるで何を解決できるかを考えて居場所の立ち上げを行っています。そしてもう一つ、認知症サポーター草加柿とロバの会、こちらはですね、認知症サポーター養成講座を受講した後に活動する場が無いと包括支援センターの方から課題として上がってきました。それをコーディネーターが受けて、認知症サポーター養成講座を受けた方たちが活動するにはどうしたら良いかを一緒に検討しました。講座を受講した後に、希望をとって勉強会を繰り返し行う中で、認知症を多くの人に広げてもらうことをしようという方たちが立ち上がり、柿とロバの会が発足しました。そして、その会で草加市ふるさとまちづくり応援基金に申し込みをしまして、基金を活用して現在、取組を行ってもらっています。そして、もう一つは子ども応援ネットワークパイン、先ほども長寿支援課の小林さんから介護保険制度が始まってというお話がありましたが、地域包括ケアシステムは高齢者だけではなく、子どもから高齢者までの誰もが住みやすい社会を作っていくというのがありますので、高齢者だけの取組ではありません。生活支援コーディネーターの活動をしていると、子どもの支援を行っている方たちを応援する機会もたくさんあって、その中で皆さまがそれぞれ良い活動をされているのですけれども、なかなか、横の繋がりが無いので活動が広まらないという課題を抱えていました。埼玉県の上田県知事が、少し前に埼玉県に子ども食堂を広げていくという取組を発表されまして、小学校区に一つずつ必要だとおっしゃっていました。そうすると800カ所くらい埼玉県ではあるのですが、草加市の小学校が21校で、草加市に子ども食堂が3つしかありません。子ども食堂をやってらっしゃる方たちは、もっと子ども食堂や地域のコミュニティカフェを増やしていきたいという思いがありましたので、子ども食堂とか、子ども塾とかそういった活動をされている方たちが、一緒になって一つのネットワークを立ち上げようということで始まったのが、子ども応援ネットワークパインです。ここでは、食材の寄付や講演会など、子ども食堂を作りたい方などの支援をしていきたいということです。コーディネーターの活動がいろいろあるので、皆さまがわかりにくくなると思うのですが、みんなでまちづくり会議が目標としている、「誰もががしあわせなまち」を目指しているというところでは、生活支援体制整備事業も同じではないかなと思っています。先ほどの地域包括ケアシステムは、地域で既に活動されている方がよくおっしゃるのですが、住民サイドから地域包括ケアシステムを作っていく、本当に私も活動しててそうだなと思っています。行政がやること、社協がやることではなく、市民の皆さまが自分たちの活動をよくしていくというところが必要だと思います。コーディネーターって、私が何かをする、作っていくということではなく、皆さまが活動したいこととか、したいけどどうしたら良いのかわからない、そういったことに対してちょっと背中を押すとか、そういう役割かなと思っています。皆さまのやりたいことが、実現していく、それを皆さままでやっていけたら良いかなと思っています。こんな感じで日々活動を行っています。以上で私の説明は終わります。ありがとうございました。

【登録員A】

どうもありがとうございました。

一通り、生活支援体制整備事業のご説明が終わりましたけれど、実はこのところを市からの情報提供ということで、最初話があった時に、そういえば今のこのような形のみみなでま

ちづくり会議になった時の一番最初の時に、今日、資料2でお渡ししました、草加市をもっと安全安心に暮らせるまちにしていくにはどうしたら良いのかというのを、一度みんなでまちづくり会議で話し合ったなというのが頭の中に巡りました。市民活動センターにも相談して、たしか資料2のここの中で議論になって課題になっていくこと、それからそのことに対して、市の方からどんな取組を行っているか、それから市民がどんなことをやっているのか、協働の取組がどんなことがあるのかということで、まとめたものが資料の2です。これが出てきて、これを見ても共通する所がずいぶんあるなど、違う所の検討だけれども、共通する所があるなどということで、今日の資料で用意してもらいました。特に今日の話の中の関わりでいえば、高齢者の課題、コミュニティのこと、それから施設の活用というところ、この所で課題として出したところが、ストレートにという事ではないのだけれども、共通の課題というような所の中で、市の方の施策として、流れや動きを出していくのかなと思った次第でございます。さて、今説明がありましたけれども、説明や中身について皆さまの方から、質問ありますでしょうか。

【登録員D】

今まで、会議を行ってきて、町会や包括などがみんな地域がバラバラで統一するといったお話を聞いていたんですが、それはどうなるのかなというのが一つと、それからもう一つ、生活支援コーディネーターがどんなことをするのか調べていますが、行政だとかシルバーだとか社協でそれぞれすごい支援体制があります。ホームページを見てみると、たくさんあるのですが少しわかりにくい所があるのと、ここで私がまとめることでは無いのですが、社会資源だとかをもうちょっと市民にわかりやすくなってくると良いと思います。

例えば、支援サポートを社協でもシルバーでもやっていて、それがみんなバラバラでやっています。もっとまとめてもらえば確実なかなって思います。市民が知らないことがあります。本当は、皆さまが一生懸命やっているのはわかるのですが、ただ、それが一本化されていないなと思います。一本化するようになれば良いと思います。以上になります。

【草加市社会福祉協議会】  
(廣川課長)

それでは、最初の地区の話から、社会福祉協議会の廣川です。そうですね、先ほどおっしゃったように、町会のブロックと、社会福祉協議会が実施しているのは、地区社会福祉協議会というのと、事務局として担っている民生委員・児童委員協議会というのがあります。そのブロック、なので社協が活動しているブロックとういうのは、今の所12になります。今現在、10地区に向けた統合の会議を実施しています。予定としましては、来年の4月の時に町会に合わせた10地区に合わせようとしているところです。地域包括支援センターについては現在8圏域で動いているのですけれども、これにつきましても町会ブロックに合わせる形で、今、市の方で動いています。

【草加市長寿支援課】  
(小林課長補佐)

2つ目の質問で、地域の資源が一元化されていないということですが、おっしゃる通り、私たち支援する側が同じような思いを抱いておりまして、いろいろな素材が出てきているよねとなっています。社協の方でも同じような課題が出てきております。地域ケア会議と言いまして、行政、社協、包括と話し合いを行う会議で、昨年やらせていただいて、その課題をどうしたら良いのかということで準備を進めています。時間がかかってしまうかもしれない

	<p>のですが、一元化したものを皆さまにご提供できるように進めてまいりますので、まとめるにあたって、地域の皆さまのお力をお借りして、進めてまいりたいと考えております。</p>
【登録員A】	<p>よろしいですか。</p>
【登録員D】	<p>はい。</p>
【登録員A】	<p>それでは、次お願いします。</p>
【登録員E】	<p>【登録員E】と申します。私の父は、87歳で母は80歳になります。それで父の方は、歩くのが難しく、手押し車を引いて、栄町1丁目から松原の図書館まで毎日通っています。その途中の道が線路沿いに松原団地の駅から草加にむかっていくところに、どぶに蓋をしたような場所があって、アスファルトを作っているのですが、そこがぼこぼこなんです。車を引いていても、一人で歩くのは大変です。草加市を考えてみた時に、道が悪すぎると思いました。例えば、草加駅と谷塚駅の間に、旧道と県道が繋がる道があります。その片側に1メートルくらいの歩道があり、その隣にどぶがあります。これがなんで埋められないのというのがありましたけれども、埼玉県を確認すると土地が無いからですと言われましたが、土地はあります。草加駅から安行出羽行きのバスがありますが、曲がって市立病院へ行くところの交差点があり、その歩道が急に狭くなってしまいます。そうすると、バスの横や大型車の横を手押し車をひいて歩かなきゃいけません。その先に整骨院があり、そんな道があっってお年寄りに対しての道が非常に悪いと思います。そこらへんを草加市に見直してもらいたいと思います。あと、熱射病の問題があります。夏になると、ジュースを買うとペットボトルの問題が出てきます。お年寄りは力が弱いのでそのキャップが開けられません。そうすると飲むことができません。そんな所も草加市で考えているのだろうかと思います。何か自動販売機につけてもらえれば、それを考えてもらわなければ、熱射病の問題も解決できないと思います。だから、普段の生活でお年寄りと一緒に住んでいる人の意見を聞くとか、問題点を挙げていかなければならないと思います。以上です。</p>
【登録員A】	<p>はい。今は、説明の内容に関する質問をしていただく時間ですけれども、今のは高年者の道路の問題だとか日常生活の中の、本日お話いただいたシステムの中で支援していくことに繋がるのかなと思うのですが、個々の具体的な答えという事では無くて、地域の取組の中で、どんなふうに行っていければ良いかということをお聞かせください。</p>
<p>【草加市社会福祉協議会】 (白河部コーディネーター)</p>	<p>以前のことになりますが、私もケアマネージャーしているときに、車イスの方が市立病院まで行くのに、ヘルパーさんが通院の介護をすることがあったんですけども、道が悪く押しにくかったり、老々介護でご主人が押していくとか、そういったケースもあったので、道の問題は当事者の人でないとわからないことだと感じます。一つ一つ道が良くなっていくと良いと思いますが、それは行政ですかね。あと、ペットボトルのキャップの話ですが、リウマチの方もそうですし、高年者の方もそうですね。空けられないことがあります。ただ、そ</p>

	<p>れを市になんとかしてもらってではなくて、例えば近所の方に空けてもらうとか、そんなこともできたりすると良いと思います。</p>
<p>【登録員F】</p>	<p>すみません、子連れで雨が降っていて、手が濡れていて開かなかったことがありました。そしたら通りがかりの人が開けてあげましょうかといって声を掛けていただいて開けてもらいました。そんなふうに、こうゆう中で繋がりができていけると良いなと思いました。すみません、話の途中で横槍を入れてしまいました。</p>
<p>【登録員A】</p>	<p>次の方お願いします。</p>
<p>【登録員G】</p>	<p>キャップの件について、私が思うに、そうゆうのはペンチとドライバーを個人的に持って、やるのが一番良いと思います。まずそういった設備も自動販売機に無いですし、つけるのも難しいと思います。年に関係なく自分でやるものです。あくまで参考の意見です。</p> <p>コーディネーターさんというのは、社会福祉協議会に所属しているということでしょうか。あと、パンフレットとかそうゆうのを見て、来てもらう事はお金がかからないのでしょうか。</p>
<p>【草加市社会福祉協議会】 (白河部コーディネーター)</p>	<p>はい、そうなります。</p>
<p>【登録員G】</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>最後の質問ですが、地域包括支援センターがあちこちにありますが、長寿支援課の下に属するのではなくて、草加市の独立した組織ということでしょうか。</p>
<p>【草加市長寿支援課】 (小林課長補佐)</p>	<p>草加市から委託をして事業を行っておりますので、機関としては独立しています。市の方と連携して事業を進めています。民間の法人に委託をしています。</p>
<p>【登録員C】</p>	<p>民間に委託しているということですが、指定委託なのか入札委託なのか、どちらですか。</p>
<p>【草加市長寿支援課】 (小林課長補佐)</p>	<p>指定委託です。</p>
<p>【登録員C】</p>	<p>どこが落とされているのですか。地域毎にバラバラなんでしょうか。</p>
<p>【草加市長寿支援課】 (小林課長補佐)</p>	<p>8か所の地域包括ケアセンターは、それぞれの法人に委託しております。</p>
<p>【登録員C】</p>	<p>以前、福祉政策課の課長にお話で、町会の単位に揃えていくということでしたが、社協の</p>

<p>【草加市長寿支援課】</p>	<p>方も揃えていくといった事でよろしいでしょうか。</p>
<p>(小林課長補佐) 【登録員A】</p>	<p>はい。</p> <p>私の方から質問してもよろしいでしょうか。</p> <p>写していただいたスライドの方で、19ページの生活支援コーディネーターと協議体ということで、第1層コーディネーターと第2層コーディネーターのご説明がありましたが、第3層のコーディネーターが図にあります。ご説明が無かったと思うので教えてください。</p>
<p>【草加市長寿支援課】</p> <p>(小林課長補佐) 【登録員A】</p>	<p>草加市では、まず1層と2層を立ち上げて、まずは第2層の話で出た課題を第1層で話し合っ、その仕組みを作ってから、町会単位の小さい第3層を作っていけたらと思います。</p> <p>というと、1層が市町村単位、2層が中学校区あたりが理想、3層あたりが町会ということでよろしいでしょうか。</p>
<p>【草加市長寿支援課】</p> <p>(小林課長補佐) 【登録員A】</p>	<p>はい。</p> <p>あと、もう一つ教えていただきたいと思ったのが、今、社協さんの支援をいただいて多くのサロンがあると思うのですが、そのサロンの活動とこの生活支援体制整備事業との関係性を聞かせてください。</p>
<p>【草加市社会福祉協議会】</p> <p>(白河部コーディネーター) 【登録員A】</p>	<p>サロンは、社会福祉協議会で助成をしているサロンなどがあるのですが、サロンが増えていくことで、地域で何か活動したいといった方たちの行ける場所が増えていくと思うので、また、サロンだけでなく、体操教室やオレンジカフェなど、皆さまのやっているいろいろな活動が地域の中で増えていけば良いので、社会資源の1つであると捉えている感じです。</p> <p>そうすると、生活支援体制整備事業とは別のものとして、捉えた方がよろしいでしょうか。連携、拡張とかという発想はとても良いことと想っている質問になります。</p>
<p>【登録員H】</p>	<p>コーディネーターの方が見守っているという感じがします。時たま、顔出しをして、どのように活動しているか様子を見に来て、地区の担当が見守っているという感じです。なので、活動する側にとって張り合いが生まれます。社協が関心を持ってきているということになるので、今までは包括のみで、社協は年に1回とかでした。</p>
<p>【草加市社会福祉協議会】</p> <p>(白河部コーディネーター)</p>	<p>今までは、社協のサロン担当が回っていたのですが、現在はコーディネーターがエリア毎にいるので、そのエリアのサロンをコーディネーターが見て回っています。それで、地域ケア会議でも、高年者のここが困っているということを、この地域には、こうゆうサロンがあるよ、こんな体操教室があるよと直に見てご紹介できるように進めているところです。なの</p>

<p>【登録員H】</p> <p>【登録員C】</p> <p>【草加市社会福祉協議会】 (白河部コーディネーター)</p> <p>【登録員I】</p> <p>【登録員J】</p> <p>【草加市社会福祉協議会】 (白河部コーディネーター)</p>	<p>で、連携という意味では本当に連携が必要ですし、見守っているのではないけれども、そんな感じになります。</p> <p>また、一人暮らしの高年者の方にサロンを紹介するケースがあつて、そういった意味では少し近づいてきたかなと思っています。</p> <p>私はさかえーるしか使った事が無いですが、障がい者の方は入れないですね。</p> <p>スロープも手すりあるので入ることはできます。</p> <p>先ほど、ペットボトルのお話がありましたけれども、熱中症に関して本当に心配だと思います。私たちも昨年、住民からもしっかりやりましょうということで、いろんなサロンがあつて、先ほどの小林さんの説明の中で、行政とか、専門家だけでは間に合わないの、民間の団体の支援が必要とおっしゃっていました。そのことについても今既に活動を行っています。昨年はマップ作りという所で取り組みました。ところが、実際に資料を集めていただいたら、たくさんあつて、行政の各所でそれだけ多く作っていたら、もうちょっと統合して整理してほしい。ペットボトルの件で言うと、機械を作ることは難しいと思います。キャップを開ける、開けないに限らず、車イスで疲れたから、歩いて疲れたからとか、気軽にさかえーるのような誰でも集まれる場所に寄ってくれることができると思います。ただ、私たちはこの人数ではやりきれないことだと思います。マップ作りも同じです。せっかくあるこれだけの資料を串を刺すように、作ってもらいたいと思います。大そうなものを作ってほしいというわけではなく、困った人がちょっと寄る、それから、赤ちゃんや障がい者も誰でも来ることのできる場所、住民が望んでいるのはそういうことだと思います。是非、串刺しをして作っていただきたいなと思います。</p> <p>今日はありがとうございました。第2層協議体が今2地区しかないということですが、その2地区がどうしてできたのか、どんな活動をしているのか、また、できていない地区はどうしたら良いかを伺いたいと思います。</p> <p>はい、2地区が出来上がった経緯ですが、昨年度第1層のコーディネーター1名、2層のコーディネーター2名が配置されました。モデル地区として、稲荷地区と松原地区にコーディネーターが配置されました。そのコーディネーターがその地域で、熱心に活動している方に声を掛けさせていただいたり、28年度から行ってきた懇談会の中で課題をあげたり、活動したい人を募ったりする中で、その話し合いの場をコーディネーターが中心となつて、話を進めて協議体となつて立ち上がった形になります。それもやっぱり地域性があり、熱心な地区もあれば、忙しくてそこまで手が回らないという地区もありますので、地域の方に合わせて立ち上げていくことができれば良いなと思っています。立ち上がりにくい地区も</p>
---	--

	<p>あるので、今年度、コーディネーター一人が2地区とか3地区を持っていますので、全てをいっぺんにというのは難しいですが、少しずつコーディネーターが中心となって進めていければ良いと思っています。なので、地域の人達の熱い思いとか協力する思いが要になってくるとしています</p>
【登録員A】	<p>今日参加されている人たちの中でも、やはり自分たちの活動でできるものがあれば、是非、やってもらいたいという所ですかね。</p>
【登録員H】	<p>はい、今のお話で、実際立ち上がった中心の人の話をこの場でしてほしいと思います。そういう話が一番役立つと思います。どんな苦労があったのかも含めてお願いします。</p>
【登録員A】	<p>それでは、お話いただけますでしょうか。</p>
【登録員K】	<p>松原の自治会もやっている【登録員K】になります。松原地区の一番の課題はやっぱり高齢化でして、草加市の平均が30何%ですけれども、松原地区に関していうと、70%に近い方が、高齢化になっています。団地が出来て50年近くになるので、出来た当初30代の方が既に80代になっているということになります。3年くらい前ですかね、松原団地見守りネットワークというのが立ち上がりまして、それから皆さまが集まるということで週3日のサロン活動を行っています。それから、ここの理事もやっていますが、介護をする方もされる方になっているという現状です。</p> <p>ここの写真に乗っているのが、松原団地自治会の会長、副会長、事務局長、私です。担当のコーディネーターと一度話を聞いてみようということで社協の会議室に一回集まり、身近なところで団地の中に集会所がいっぱいあるので、二度、三度と話し合いを行いました。その中で、キャッチフレーズがあった方が良いねということで、「ザ・松原マン」と、私たち地域の担当とつけさせていただきます。そうした中、活動の自治体の一つで、子どもが非常に少ないので、貸農園を行っています。そこで収穫体験を28日に行い、これだけできたよというのを子どもたちに見せて、親子連れで行って地域に馴染んでもらって、人参ジュースを皆さまで味わいましょうということを行っています。高齢化の問題と少子の問題も含めて、少しでも若い方がいることで地域の活性化に繋がりますので、そんな努力をしながら社協さんや農家さんと協力しています。実際にニーズを図ろうとアンケートをとっているの、今後活動の方針も決まってくるのかなと思います。今日までの活動の報告になっているかわかりませんが、こんな感じになります。</p>
【登録員A】	<p>ありがとうございました。 松原団地で立ち上がった経緯と現状ということでありがとうございます。</p>
【登録員C】	<p>この前の、草加市ふるさとまちづくり応援基金の時に、ママ防災の方がいらっしゃいました。草加の女性で専業主婦の割合が60%もいて高所得者の家庭が草加は多いなと思いまし</p>

<p>【登録員A】</p> <p>【登録員L】</p> <p>【登録員A】</p> <p>【草加市長寿支援課】 (小林課長補佐)</p> <p>【登録員A】</p>	<p>たけれども、ああゆう若い人たちと一緒に何かやることとかはできないでしょうか。</p> <p>はい、提案の一つですね。ありがとうございます。 その他ありますでしょうか。</p> <p>はい、80過ぎてまちづくりを一生懸命やっているのですが、今日来た人にも質問したくて来ましたが、子ども食堂のようにご飯を食べさせることと終末期に療養する場所として住み慣れた地域で過ごすことが相反していると思います。元気なまま死んでしまうという聞こえが良いのか悪いのかわからないですけども、国で地域包括ケアシステムを推進しているものですから、市町村もやらなければいけないと思います。しかし、本当に可能なのかどうかも同時に考えていかなければならないと思います。施策に一貫性が無いといけないと私は思うのですが、これからますます財政も緊迫する中で、生まれてから死ぬまで一人でも生きていけるようなまちをつくっていくことこそが、私の中でまちづくりの理想形だと思います。</p> <p>要するに、子どもから高齢者まで、この施策の中で一貫してまちづくりが出来るのかという事ですね。いかがでしょうか、そのあたりの見通しをお聞かせください。</p> <p>本日、お話をさせていただいた地域包括ケアシステムですが、国の方でも当初は高齢者の方を中心に考えられたものでしたが、最近の介護保険計画のところで子どもからお年寄りまでを視野に入れた取組みをというふうに考えが代わってまいりました。高齢者の方だけに焦点を絞って考えるのではなく、どの世代の方も住みやすい地域にするためには、世代で区切ることなく互いに補いながら、地域でこんな仕組みがあったらいいな、こんな仕組みを作っていきたいと思います。行政といたしましても地域包括ケアシステムの医療、住まい、介護、生活支援、介護予防といくつか柱があるのですが、今はそれぞれの取組をそれぞれ進めており、なかなか連携がとれていないというところがあります。その連携を図っていくことについても今後の課題であると感じています。そこにプラスして、どんなふうにしていけば良いのかを、行政だけでなく、地域の方々と一緒に進めていかなければならないと思っています。</p> <p>また、地域住民の方にもっといろいろな情報を提供していく必要があるのではないかと思います。先ほどのペットボトルのキャップが開けられないということ一つにしてもそうだと思うのですが、簡単に開けることができるグッズがあるんですよとお伝えしていけば、解決していくかもしれない、そのようなちょっとした生活の困りごとに対する情報などをお伝えしていくことも重要なことだと考えております。いろいろなところで把握している地域資源についても、情報を整理、一元化して、地域の皆さまに届きやすいような在り方を検討し、進めさせていただければと思います。</p> <p>皆さまの方から、今日のご説明に関する質問を出していただきましたが、もし無ければ短い時間ですが、せっかく集まっていたので皆さまで少しフリーな話し合いを行ってい</p>
--	--



	<p>ただくと良いかなと思います。そんな形で残り時間進めさせていただいてよろしいでしょうか。</p> <p><b>【登録員C】</b></p> <p>基本的に、孤独死、哀れに死んでいくのか、それとも尊厳を持って死んでいくのか、ここらへんは年をとったらある程度覚悟すべきだと思います。日本の文化として、なかなか行政も上のものにぶら下がる思想を持っていて自立がなかなかできないと、そういうことを考えたらやっぱりある程度年をとったらサロンを否定するわけでは無いですけども、終末を一人でも、リビングウエルじゃないですけど、なんらかの考えを持ってほしいと思います。ちょっときつい言い方かもしれませんが、親は親で子離れできなくて、子どもは子どもで親離れできない、いつになっても自立できない、結婚率は下がり、こんなんでどうしようもないですよと思います。</p> <p><b>【登録員A】</b></p> <p>それでは残りの時間が僅かですけども、グループ毎の話、今日的生活支援体制整備事業の話を踏まえながら、もっとこの活動を充実させていくことができればいいかを、市民としてどうゆうことができるか、行政、市に対する提案として、どんなことを考えられるかを提案して、話し合いをしてもらいたいと思うのですがよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、本日お話いただいた市の方と社協の方々ありがとうございました。</p> <p>グループ毎の話し合いを、10分程ですがよろしくお願いいたします。</p> <p><b>【グループ発表】</b></p> <p><b>【登録員I】</b></p> <p>私たちの発表をしたいと思います。彼女がぼそっと、なぜこの会議は若い人がいないのでしょうかとお話されました。それから専業主婦の割合が多いということが私の年代では少しショックでした。なぜ、みんなでまちづくり会議に出てこないのだろうか、と思った時に選挙と同じで関心が低いのだろうと思いました。地域包括ケアシステムは、これから共生社会づくりとういうことで高齢者や子ども、障がい者の全ての人が住みやすいまちづくりになるのですが、結局は草加市の60%がお金に裕福ということになります。埼玉県そのものが住みやすく困っていないともとれてしまいます。介護がどうしようと不安があるのは高齢者だけであるとそんな話し合いになってしまいました。終わりです。</p> <p><b>【登録員M】</b></p> <p>Bグループの<b>【登録員M】</b>です。Bグループは、思ったことを話させていただきました。なにを思ったかという、いろいろなことをいろいろな団体が言いますがどれもいつも言いっぱなしです。報告書が積み重なっていくだけで、問題はなかなか解決していきません。という話をさせていただきました。組織としての問題点が一番大きく、話の上でも組織がそれぞれの課で良いことをたくさんやっているのですが、横の繋がりが無いので、同じようなことを同じような会議で話し合いをしていて、たぶん似たような報告書が上がってきていると思うのですが、横の繋がりでコーディネートできていないです。先ほどのお話でコーディネーターが出てきているので、考え方はとても良いと思います。いろいろな意見や考えをまとめてコーディネートするというのは、1つの架空の中のコーディネートでしかないので、全</p>
--	---

体の中で見た時のコーディネーターが日本の社会でも、この県でも町でも市でも一緒です。それをコーディネートする団体、役員が必要になってきます。このみんなでまちづくり会議の話し合いにしても、毎回毎回言うだけで終わってしまうのが問題だと思います。やはり問題を解決するにも、意識を変えていかないとダメと思いました。実際、皆さんがこのような会議にして、意見を言わない、先ほども選挙に行かないと言っていましたけれども、本当に困っていないのだと思います。本当に困ったなら選挙にも行って自分と同じ考えを持った人を選ぶのだと思いますけど、本当に困っている人は少ない。だから、本当に困っている人がいるところやう社会福祉協議会の人たちが頑張ってくれてなんとかしてくれるだろうと思っています。だから、何を言わなくてもやってくれるだろうとい社会の風潮がある、それを打破するには、コーディネーターさんが市役所の中において全体を見るコーディネーターがいてもいいのかなと感じました。

【登録員C】

【登録員C】です。特にまとまった意見は無かったのですが、【登録員M】がおっしゃったように、私もそう思います。何かにつけてぶら下がっていると思います。質疑応答でも、誰も手があげないというセミナーを経験しています。皆さまの世代で私たちは良い暮らしができるようになったかもしれませんが、肝心の必要な部分は壊されている気がします。その辺は皆さまの考え方と共に一緒にすり合わせを行っていければ良いと思います。

【登録員A】

ありがとうございました。

今までとは違った議論ができたのかなと思います。何か見えてきたのかなと思います。市の一つ一つの所で生活しているのではなくて、全体の中で一人一人生きています。ただ、市の方では個々に施策が分断されがちなので、縦割り行政と言われている所を子どもから高齢者まで繋ぐ必要があると動き始めているのかなと今日の生活支援体制整備事業のお話で感じました。

また、資料2でも、市民側の意見として貴重な材料を含んでいて、こういったものをもっともっと市として繋いでいく努力、コーディネーターという所で、そういう、職員なり役割の人達が行政の中でも増えてくれば良いと思いました。

それから、マップ作りについても消化不良ではありましたが、とても良いことなので、安心して暮らしていくための資源をわかりやすく示していくマップがあると良いと思いました。

さて、次回会議ですが、今回市の施策の一つを出していただきましたけれども、市としてまちづくりの何らかの報告をいただいても良いと思うのですがいかがでしょう。

【登録員G】

賛成です。

【登録員A】

ありがとうございます。

それでは、事務局と相談しながら、次回の会議の準備、それから皆さま方へのご提示を進めさせていただきます。以上で事務局へお戻りたいと思います。

<p>【事務局】 (鈴木所長)</p>	<p style="text-align: center;">《進行を事務局へ》</p> <p>本日、長寿支援課と社会福祉協議会の方にお話をいただきましたが、今回の会議でも出ました地域ケア会議ですが、前回のマップ作りと繋がる部分があります。地域資源をわかりやすくしようとする動きがあり、マップ作りの会議の話で、皆さまからこんな意見が出ましたというのを、情報提供しておりますことを報告いたします。</p> <p>それでは、時間となりますので、議事を終了します。</p> <p>本日、進行役を務めていただきました【登録員A】ありがとうございました。そして、ご出席いただいた登録員の皆さま、真剣に意見交換をしていただきありがとうございました。</p> <p>次回の会議は、令和元年10月23日(水)に同じ場所(中央公民館第1第2講座室)で開催します。</p> <p>次回の進行役ですが、【登録員A】と【登録員B】に引き続き務めていただきたいと思います。ですが、いかがでしょうか。</p> <p>それでは、これもちまして、令和元年度第2回みんなでまちづくり会議を終了いたします。ありがとうございました。</p>
-------------------------	---